

■ 乾太助記念動物科学研究助成基金の助成実績

研究の題名	申請者氏名	所属機関名
【平成5年度】		
・マウス胚性幹(ES)細胞ならびに胎子期生殖細胞の低温保存および核移植に及ぼす細胞周期の影響	加藤容子	近畿大学農学研究科学術振興会特別研究員近畿大学農学研究科学術振興
・バビルサの生態と餌における研究	AGUNG PURNOMOADI	東京農業大学大学院農学研究所研究
・コウノトリのミトコンドリアDNAによる遺伝的モニタリング	王立石	東京大学農学系研究科獣医学専攻大学院生
・鳥類の鉛中毒症に関する実験病理学的研究－免疫系および内分泌系の障害について－	落合健爾	北海道大学獣医学部助手
【平成6年度】		
・タマラオ( <i>Bubalus mindorensis</i> )の保護に関する集団遺伝学的研究	Chester Dizon Solis	名古屋大学大学院農学研究科畜産学専攻博士課程
・PCR法を用いた希少野生動物の性別判定および個体鑑別血縁分析法の開発	高見一利	岐阜大学大学院連合農学研究科博士課程
・夜行性動物の視覚機能に関する研究	竹内崇	鳥取大学農学部助手
・重油汚染鳥類の病態生理学的研究	大和修	北海道大学獣医学部家畜内科学講座助手
【平成7年度】		
・ツキノワグマの保護、ことに越冬穴選択の解析	橋本雪彦	東京大学農学部野生動物システム学研究室大学院生
・低栄養による繁殖障害の発生機序に関する研究	Maria Amelita Estacio	名古屋大学大学院農学研究科博士課程前期
・尿中ホルモンの解析によるゾウの生殖機能の研究	新井浩司	東京農工大学農学部家畜生理学大学院博士課程
・希少猛禽類における環境汚染物質の残留実態	山地明子	岐阜大学農学部獣医学科研究生
【平成8年度】		
・雄性生殖細胞の培養分化システムを利用した新しい人工繁殖法の開発	大迫誠一郎	鹿児島大学農学部助手
【平成9年度】		
・糞や体毛より抽出したDNAを用いた、類人猿の性別別および個体識別法の開発	村山美穂	岐阜大学農学部助手
【平成10年度】		
・エンナキウサギの保護対策：保全生物学の視点から地域社会と環境保全の共生を探る	小島望	岩手連合大学大学院連合農学研究科博士課程
・北海道沿岸に來遊する鰐脚類の個体群動態に関する基礎的研究	石名坂豪	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程
・“発情期”と非発情期におけるフタコブラクダの頸腺(Poll gland)の比較研究	額爾敦朝魯	酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程
・Feeding ecology and management of whooper swans	John O Albertsen	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程
【平成11年度】		
・北海道網走郡美幌町におけるキタクビワコウモリの生態に関する研究	斎藤理	東京農業大学大学院生物産業学研究科学生
・レッサーパンダの繁殖メカニズム：性ホルモン分泌の季節変動解析による検討	望月緑	静岡市立日本平動物園非常勤職員
・ジュゴン( <i>Dugong dugon</i> )の消化機構ならびに摂餌生態	明田佳奈	三重大学生物資源学研究科水圏生態学研究室院生
・移入鳥ソウシチョウの在来鳥類群集への影響と地域個体群の遺伝的構造の比較	天野一葉	九州大学大学院比較社会文化研究科大学院生
・鳥類性染色体の遺伝子機能の解析とPCR性別法の繁殖現場への応用	伊藤裕一郎	東北大学農学研究科応用生命科学専攻博士後期
【平成12年度】		
・カヤネズミの生息地保全に関する研究(副題：市民と共に作る全国「カヤネズミ・マップ」)	畠佐代子	大阪市立大学大学院理学研究科
・ブタ卵母細胞のガラス化凍結保存に関する研究	Sugulle Abukar Hassan	東北大学大学院農学研究科修士
・SINEを指標とした鯨類の系統的、集団遺伝学的解析	二階堂雅人	東京工業大学生命理工学部バイオサイエンス専攻博士課程
・日本イヌワシの繁殖生態に関する研究	布野隆之	新潟大学大学院自然科学研究科大学院生
・日本鶏に蔓延するトリの神経腫の本態究明	岩田奈織子	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程
【平成13年度】		
・島嶼生態系におけるネコ科の時空間的環境利用様式	渡辺伸一	琉球大学大学院理工学研究科博士課程
・北海道沿岸に來遊する鰐脚類における有機塩素系化合物の蓄積機構とその毒性影響に関する研究	星野広志	北海道大学大学院水産科学研究科博士課程
・人工草地を利用した草地生息性小型・中型哺乳類の保護に関する研究	石若礼子	九州大学日本学術振興会特別研究員
・御崎馬群の保全的管理に関する研究	井上陽一	山口大学大学院連合獣医学研究科
・農耕地に依存する猛禽類サンバの越冬生息地保全	呉盈瑩	東京大学大学院農学生命科学研究科大学院生

研究の題名	申請者氏名	所属機関名
<b>【平成14年度】</b>		
・野生ハンドウイルカにおける接触を伴う行動に関する研究	酒井麻衣	東京工業大学大学院生命理工学研究科博士後期課程
・バットボックスを用いたヒナコウモリ、キタクビワコウモリの生態研究および保護対策の構築	福井大	北海道大学大学院農学研究所
・ネコ卵母細胞の体外受精に関する研究	Ni.Wayan Kurniani Karja	山口大学大学院連合獣医学研究科
・ツキノワグマによる林木の剥皮害を発生させる食物環境の解明	玉谷宏夫	京都大学大学院農学研究科森林利用学研究室
・飼育下ペンギンの鳥マラリアに関する研究—PCR法を用いた鳥マラリア原虫DNAの増幅—	穴井直博	高知県立のいち動物公園
<b>【平成15年度】</b>		
・ニホンヤマネの生態学・行動学的研究からグローバルな保護対策の構築へ	岩淵真奈美	キープやまねミュージアム職員
・鯨類用人工調合乳の調整に関する基礎研究	上村祐介	帯広畜産大学酪農化学研究室
・オオタカ精液の冷蔵保存および冷凍保存に関する研究	波多野幾也	NPO法人日本放鷹協会
・絶滅危惧Ⅱ類コアジサシの人工営巣場所創出管理のための研究	戸津久美子	東京大学大学院農学生命科学研究科生物多様性科学研究室
・精子レセプター分子への結合を指標とした鳥類精子のクオリティーアセスメント	笹浪知宏	静岡大学農学部応用生物化学科
<b>【平成16年度】</b>		
・タンザニア西部におけるチンパンジーの保護管理に関する基礎的研究	中村美知夫	財団法人 日本モンキーセンター・リサーチフェロー
・ミナミハンドウイルカの生活圏と採餌に関する研究	森阪匡通	京都大学大学院理学研究科動物生態学研究室
・ミンククジラの体外受精に関する研究	岩山広	帯広畜産大学畜産学研究所修士課程
・アホウドリをはじめとする希少海鳥類の分子的性判定	長井和哉	弘前大学大学院農学生命科学研究科大学院生
・三陸海岸における海鳥類の保全と生態に関する研究	松本経	北海道大学大学院水産科学研究科博士後課程
<b>【平成17年度】</b>		
・オオアリの唾液を利用した性周期モニタリングに関する研究	上田愛子	横浜市立よこはま動物園動物職
・ニホンツキノワグマにおける栄養状態と繁殖に関する生理学的検討	中村幸子	岐阜大学大学院連合獣医学研究科博士課程
・アブラコウモリの分布拡大の歴史とその要因～人間活動の広がり分布拡大に影響を与えたのか？	Lazaro Miguel Echnique Diaz	東北大学大学院生命科学研究科博士課程
・隔離された島嶼生態系で血液原虫が鳥類の繁殖に及ぼす影響	松井晋	大阪市立大学大学院理学研究科大学院生
・野生生物の地域資源・象徴資源化についての研究～兵庫県豊岡市コウノトリの野生復帰を事例に	本田裕子	東京大学農学生命科学研究科博士課程
<b>【平成18年度】</b>		
・動物園で使える希少有蹄類の繁殖生理・生態モニタリング技術の開発	中川大輔	姫路セントラルパーク動物部
・持続的狩猟を通じた大型動物個体群管理に関する基礎研究—西表島イノシシ個体群に着目して—	蛭原一平	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士後期課程
・シカが森林生態系に果たす役割の評価—大規模野外操作実験による検証—	日野貴文	北海道大学環境科学院博士課程
・琉球列島におけるフクロウ類3種の分布とその決定要因	伊藤はるか	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程
・ライチョウの保全に関する基礎研究	澤祐介	京都大学大学院理学研究科修士課程
<b>【平成19年度】</b>		
・ラジオテレメトリーを用いたコウベモグラの基礎生態学的研究	樫村敦	宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程
・エゾシカにおける受胎時期遅延の至近要因解明に関する繁殖生理学的研究	柳川洋二郎	北海道大学大学院獣医学研究科生態学教室博士課程
・生息環境の異なるエゾモモンガの生態的研究	浅利裕伸	岩手大学大学院連合農学研究科博士課程
・日本固有種ニホンテンの保全遺伝学的研究	佐藤淳	福山大学生命工学部生物工学科助教
・絶滅危惧種オオセッカの繁殖生産力の推定と野焼きの影響について	高橋雅雄	立教大学理学研究科生命理学専攻博士後期課程
<b>【平成20年度】</b>		
・イロワケイルカの生体リズムに基づく、繁殖環境向上に関する研究	吉田弥生	京都大学理学研究科博士後期課程
・分布予測モデルを用いたカモシカおよびシカにおける種間関係の解明	八代田千鶴	岐阜大学大学院連合獣医学研究科特別協力研究員
・トガリネズミが生態系で担う役割	南波興之	北海道大学低温科学研究所博士課程
・小鳥の思春期発動と歌学習の臨界期の関係解明に関する神経内分泌学的研究	戸張靖子	日本医科大学大学院医学研究科ポストドクター
・農耕地帯の森林生態系におけるアカゲラ個体群の保全管理に関する研究	森さやか	東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程

研究の題名	申請者氏名	所属機関名
<b>【平成21年度】</b>		
・カワネズミの半水生適に関する研究	藤本竜輔	東京農業大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程
・飼育鯨類の活動周期と休息行動について	岩崎真理	東京工業大学大学院学生
・豪雪地帯のニホンヤマメの好適な生息環境の解明	中村夢奈	山形大学理学部大学院生
・千曲川中流域で繁殖するカワセミ <i>Alcedo atthis</i> の育雛に釣り人の存在が与える影響の評価	笠原里恵	東京大学大学院農学生命科学研究科付属緑地植物実験所農学特定研究員
・慣行田における江の創出が、水生生物(魚類)量の変化を介して水鳥類(サギ類)の採餌活動に与える効果	村上比奈子	新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程
<b>【平成22年度】</b>		
・ニホンツキノワグマにおける冬眠前の脂肪蓄積に関する生理学的研究	加味根あかり	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程
・コウモリ類保全を目的としたモニタリングのための「音声による種判別法」の構築	福井大	森林総合研究所北海道支所非常勤研究員
・ゾウの卵胞発育・排卵・副黄体形成機構に関する研究	山本ゆき	岐阜大学大学院連合獣医学研究科博士課程
・特別天然記念物「土佐のオナガドリ」をその絶滅の危機から救う!	後藤達彦	広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期
・コアジサシの最適な人工営巣環境の造成・管理技術の確立に関する研究	染谷さやか	東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程
<b>【平成23年度】</b>		
・トガリネズミ形目における新規モデル動物の開発	黒田高光	東京農業大学大学院生物産業学研究科修士課程
・絶滅危惧種アマゾンマナティーの放流事業における行動把握についての研究	菊池夢美	東京大学大学院農学生命科学研究科農学特定研究員
・野外におけるアカネズミの体温変動と日内休眠に関する研究	大久保慶信	宮崎大学大学院農工学総合研究科博士後期課程
・東アジアおよび北米における渡り鳥マガンの遺伝的構造の解明	森口紗千子	独立行政法人国立環境研究所特別研究員
・イリオモテヤマネコの主要な餌資源としてのシロハラクイナの環境利用様式	岩崎哲也	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程
<b>【平成24年度】</b>		
・分断化された生息地における森林性齧歯類の生息地保全	鈴木圭	岩手大学大学院連合農学研究科生物環境科学専攻博士課程
・奄美大島における残存マングースの生息地特性と移動分散要因の解析	小峰浩隆	東京農工大学野生動物保護学研究室学生
・個体数増加に関わる雌アライグマの繁殖生理機構の解明	奥山みなみ	北海道大学大学院獣医学研究科野生動物学教室博士課程
・哺乳類受精卵の発育におけるレプチンの生理作用の解明と培養技術への応用	柗嶋克哉	弘前大学農学生命科学部研究員
・鳥類の多精受精の生理的意義の解明による顕微授精技術の改良	水島秀成	静岡大学農学部応用生物化学科日本学術振興会特別研究員
<b>【平成25年度】</b>		
・北海道沿岸域に生息する絶滅危惧種ゼニガタアザラシの音響・行動生態に関する研究	岩田高志	東京海洋大学海洋観測支援センター博士研究員
・ツシマテンの採餌戦略に着目した同所的に生息する食肉目3種の種間関係	大河原陽子	琉球大学大学院理工学研究科大学院生
・栃木県日光足尾地域におけるフンドナを用いたニホンジカ個体群の遺伝構造の検討	杉田あき	東京農工大学農学府自然環境保全学専攻学生
・道東の森に暮らす鳥達の本来の姿を追う〜国後島と道東地域の森林性鳥類比較〜	外山雅大	根室市歴史と自然の資料館主任学芸員
・ライチョウの保全および保護増殖にむけた生殖内分泌生理の解明と野生個体の繁殖生態の生理学的解明	山本彩織	岐阜大学大学院連合農学研究科博士後期課程大学院生
<b>【平成26年度】</b>		
・反芻動物の妊娠認識及び着床期間における生殖免疫の解明	前田洋佑	北海道大学医学部助教
・ゴンドウクジラ類における繁殖生理学的調査と精子の凍結保存に関する研究	船坂徳子	太地町立くじらの博物館
・北海道におけるゼニガタアザラシ ( <i>Phoca vitulina stejnegeri</i> ) の個体群幸三と系統地理の解明	水野米利子	東京農業大学大学院アクアバイオ学科水産資源管理研究室博士課程
・絶滅危惧種チュウヒの個体群増殖を意図した繁殖成績改善に関する研究	高橋佑亮	岩手大学大学院農学研究科修士課程
・希少鳥類の保全を旨とした鳥類種横断的な腎障害マーカーの探索	石井千尋	北海道大学大学院獣医学研究科大学院生
<b>【平成27年度】</b>		
・オランウータンにおける妊娠時のホルモン動態と精子の液状保存に関する研究	木下こづえ	京都大学霊長類研究所
・モニタリングに有効な生態的指標の評価ーニホンジカを例としてー	竹下和貴	東京農工大学連合農学研究科
・登攀技術とDNA分析を用いた危急種ビントロングの保全に関する研究	中林雅	京都大学野生動物研究センター
・絶滅危惧種アマミノクロウサギの生理・行動に観光産業が与える影響評価	鈴木真理子	鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
・東アジアに生息する希少猛禽類に関する遺伝的構造と多様性の解析	長井和哉	岩手大学農学部

研究の題名	申請者氏名	所属機関名
<b>【平成28年度】</b>		
・体温変動を指標としたサドモグラの生理生態学的研究	江藤毅	新潟大学研究推進機構 朱鷺・自然再生学研究センター
・餌付け行為がエンリシに与える影響:警戒心の低下と生存率に着目して	内田健太	北海道大学環境科学院動物生態学コース
・侵略的外来種マングース特異的避妊ワクチンを用いた新たな個体数抑制法の開発	國永尚稔	岐阜大学大学院連合獣医学研究科野生動物医学研究室
・羽毛の元素分析を用いた希少小型鳥類に対する移動履歴解明手法の開発	坂有希子	岩手大学大学院連合農学研究科
・匂いから迫る、ダイウコノハヅクの近親交配回避の仕組み	澤田明	大阪市立大学大学院理学研究科
<b>【平成29年度】</b>		
・海域サウンドスケープの変動がジュゴンの生息に及ぼす影響に関する研究	久貝悠真	京都大学 生物圏情報学講座 生物資源情報学分野
・食物環境の変化がヒグマの繁殖効率に与える影響の解明	白根ゆり	北海道大学大学院獣医学院 野生動物学教室
・クマは背中で繁殖の情報を伝える? -背部皮膚腺の発達と繁殖能力の関係	富安洵平	岐阜大学大学院連合獣医学研究科 (帯広畜産大学 配属)
・北海道の湿性草原棲クイナ類の生息状況	貞國利夫	釧路自然史研究会
・絶滅危惧種ニホンイヌワシの遺伝的多様性の解析と適切な保全対策の検討	佐藤悠	京都大学大学院 理学研究科生物科学専攻
<b>【平成30年度】</b>		
・シカ死体の分解過程における脊椎動物と無脊椎動物の役割の評価	稲垣亜希乃	東京農工大学大学院農学府自然環境保全学専攻
・ホッキョクグマにおける生理状態の季節変化と繁殖に関する研究	神保美渚	北海道大学大学院獣医学院 野生動物学教室
・小型イタチ科動物の種間関係の解明を目指した毛形態による種同定法の開発	鈴木聡	神奈川県立生命の星・地球博物館
・DNAメタバーコーディングを用いた食性調査によるイリオモテヤマネコの繁殖生態の解明	戸部有紗	琉球大学大学院 理工学研究科
・全国規模での鳥類における鉛曝露の実態解明	石井千尋	北海道大学大学院獣医学研究院
<b>【2019年度】</b>		
・カモシカ保全体制の発展を目指した死因モニタリング方法の開発-滅失個体の有効活用-	生島詩織	岐阜大学大学院連合獣医学研究科野生動物医学研究室
・マサイキリンの仔育て場に着眼した保全に関する研究	齋藤美保	大阪大学人間科学研究科
・ブナ科堅果の結実豊凶がツキノワグマの繁殖成功に及ぼす影響の評価	栃木香帆子	東京農工大学農学府自然環境保全学専攻
・絶滅危惧種アカモズのアジア全土での保全に向けた渡り経路の解明	青木大輔	北海道大学大学院理学院
・投与実験による海鳥のプラスチック摂食の毒性影響評価	田中厚資	北海道大学大学院獣医学研究院毒性学教室
<b>【2020年度】</b>		
・ヒグマにおける頭蓋内部構造の成長パターンに関する形態学的研究	板倉来衣人	帯広畜産大学大学院畜産学研究所博士前期課程
・小笠原諸島におけるハシナガイルカの保全に向けた個体数推定と海域利用生態の把握	辻井浩希	一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
・ニホンジカの生息数の変化はツキノワグマにどのような影響を及ぼすのか?	長沼知子	東京農工大学グローバルイノベーション研究院
・大量死のリスク評価を可能にする希少猛禽類の人工多能性幹細胞の樹立	片山雅史	国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター
・リュウキュウコノハヅク・オオコノハヅクをアンブレラ種としてやんばる生態系保全の検討	熊谷隼	北海道大学理学部生物科学科
<b>【2021年度】</b>		
・被災アカネズミにおける精原幹細胞の自己複製および分化能を指標とした生環境評価	時田駿	新潟大学大学院自然科学研究科
・シカが増えるとカモシカはストレスを抱えるのか?	高田隼人	山梨県富士山科学研究所
・アマミノクロウサギにおける外来感染症の探索と感染リスクの検討	所司悠希	東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻
・エゾナキウサギの個体数の規定要因の解明:生息地と景観の両スケールの影響を考慮して	崎山智樹	北海道大学大学院環境科学院
・生活史全体を考慮した保全状況評価の実施を見据えたヒメクロウミツバメの移動追跡	中原亨	北九州市立自然史・歴史博物館
<b>【2022年度】</b>		
・ヒグマおよびホッキョクグマにおける人工繁殖技術確立のための精液採取および凍結保存方法の検討	鳥居佳子	北海道大学大学院獣医学研究院繁殖学教室
・絶滅の危機にある四国のツキノワグマの分布解明と生息地評価	富田幹次	高知大学農林海洋科学部
・ニホンジカ南北2系統の分岐と混合の解明	高木俊人	福島大学大学院共生システム理工学研究科
・繁殖投資量の変化が野外ウトウの老化速度に及ぼす影響	松本和也	筑波大学大学院理工情報生命学術院 生命地球科学研究群生物学学位プログラム
・絶滅危惧 I A 類ウミガラスの保護を見据えた刺し網漁による海鳥混獲の発生要因調査	佐藤信彦	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

研究の題名	申請者氏名	所属機関名
<b>【2023年度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒグマの糞は生態的トラップの一因になっているか？</li> <li>・AI技術を活用した非接触かつ非侵襲的な齧歯類の性別判定法の開発</li> <li>・ヒグマにおける体毛DNAを用いた年齢推定法の確立</li> <li>・海洋島に生息する固有鳥類の繁殖に外来哺乳類が与える被害の現状解明とマイクロフォンアレイによる鳥類繁殖調査手法の確立</li> <li>・伯耆大山山麓におけるジョウビタキの繁殖生態および分子生態学的研究</li> </ul>	勝島日向子 酒井悠輔 中村汐里 金杉尚紀 楠ゆずは	北海道大学環境科学院 宮崎大学フロンティア科学総合研究センター 北海道大学大学院獣医学研究院野生動物学教室 北海道大学大学院理学院 広島大学生物生産学部生産学科